

平成27年度

運営に関する計画・自己評価

[最終反省]

大阪市立夕陽丘中学校

平成27年4月1日

平成27年度 教育指導の計画

【学校運営の重点】

「生きる力」を育む、感動ある教育活動を推進し、思いやりあふれる学校をめざす。

重点目標

心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力を育成する。

《具体的方策》

1. 基礎的・基本的な内容の確実な定着と、生徒の活発な意見をもとにした学習活動を充実し、自ら考え、意欲的に解決する力を育む。
2. 豊かな体験的活動を通して、個性を尊重し、互いに支えあう集団の育成を図り、思いやる心や感動する心を育む。
3. 自らの健康や体力に関心を持ち、健康でたくましい心身を養い、自律的な生活習慣や態度を育む。
4. 今日的課題に対応する教育を充実させ、自らの判断で、生きるべき道を選択し、決定するとともに、社会の変化に的確に対応できる力を育む。
5. 元気アップ地域本部と連携して、地域・保護者の学校支援体制を構築し、家庭や地域の教育力を活かした教育活動を進めるなかで、地域行事への積極的な参加とともに、地域の一員である自覚と感謝する心を育む。

《努力目標》

何ごとも「心」をこめて行動しよう。

1. 気持ちよく挨拶のできる生徒
2. 心をこめて人の話の聞ける生徒
3. ルールやマナーを守る生徒
4. 自らすすんで掃除をする生徒

大阪府立夕陽丘中学校 平成27年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題**現状**

- ・「感動と心」をキーワードとし、教育目標を「『生きる力』を育み、感動ある教育活動を推進し、思いやりあふれる学校をめざす。」と設定して、教育活動を展開している。
- ・生徒は学習に対する意欲をもち「何事にも心を込めて行動する」を努力目標として、教育活動の取り組みを進めている。学習面では、全国の学力・学習状況調査をみる限りにおいては、全国平均と同程度の学力が備わっており、意欲的に学習活動を進めている。また、基本的な生活習慣が、身につけている生徒がほとんどであるが、一部、生活指導上の課題のある生徒も現存する。
- ・学校協議会においては、教員が、熱心に学習指導に取り組んでいる点と多様な課題に教職員が協働して取り組んでいる点が、評価されている。

課題

- ・学力の二極化が、課題としてあげられる。習熟度授業や少人数授業を活用することや、生徒間で話し合う活動を行うなどの工夫を行い、より良い授業実践を展開し、自ら学習できる態度を育成する。
- ・学校元気アップ事業をより積極的に活用して地域との連携をさらに深めていく。
- ・体調面や時間管理等について自ら考え、行動できるそして、自己管理のできる生徒の育成に努める。
- ・学習面や生活指導面において、9年間のスパンで子どもを育てるという観点で、小中連携を推進していく。

中期目標**【視点 学力の向上】**

- 平成28年度の全国学力・学習状況調査における「普通の授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていると思いますか。」の項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を40%以上にする。 (カリキュラム改革関連)
- 平成27年度までに全教科において小学校との教科間連携を実施する。 (マネジメント改革関連)
- 平成27年度には、テスト前学習に参加する生徒の割合を15%にする。 (カリキュラム改革関連)

【視点 道徳心・社会性の育成】

- 毎年度末の校内調査において遅刻生徒の数を、毎年、前年度より減少させる。 (カリキュラム改革関連)
- 平成28年度の全国学力・学習状況調査における「人の気持ちがわかる人間になりたいと思いますか」の項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を95%以上にする。 (カリキュラム改革関連)
- 平成28年度の全国学力・学習状況調査における「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を35%以上にする。 (ガバナンス改革関連)

【視点 健康・体力の保持増進】

- 平成27年度末の校内アンケートにおける「清掃活動を積極的に取り組んでいる。」の項目について、「よくあてはまる（ややあてはまる）」と答える生徒の割合を85%以上にする。 (カリキュラム改革関連)
- 平成27年度末の校内アンケートにおける「体調面での自己管理ができている」の項目について、「よくあてはまる（ややあてはまる）」と答える生徒の割合を80%以上にする。 (カリキュラム改革関連)
- 検診で分かった症状の受診率100%をめざす。 (カリキュラム改革関連)

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点 学力の向上】

- ①言語活動の取り組みを学校全体で取り入れ、平成 28 年度の全国学力・学習状況調査における「普段の授業では、生徒の
間で話し合う活動をよく行っていると思いますか。」の項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」
と答える生徒の割合を 40%以上にする。 (カリキュラム改革関連)
- ②平成 27 年度末には、校区小学校と校種や教科を越えた連携を図り、指導法について研修し、相互の授業参観を実施す
る。 (マネジメント改革関連)
- ③平成 27 年度のテスト前学習に参加する生徒の割合を 15%にする。 (カリキュラム改革関連)

【視点 道徳心・社会性の育成】

- ①平成 27 年度末の校内調査において遅刻生徒の数を前年度より減少させる。 (カリキュラム改革関連)
- ②平成 28 年度の全国学力・学習状況調査における「人の気持ちがわかる人間になりたいと思いますか」の項目について
「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 95%以上にする。 (カリキュラム改革関連)
- ③平成 28 年度の全国学力・学習状況調査における「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の項目について「当
てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 35%以上にする。 (ガバナンス改革関連)

【視点 健康・体力の保持増進】

- ①平成 27 年度末の校内アンケートにおける「清掃活動を積極的に取り組んでいる。」の項目について、「よくあてはまる
(ややあてはまる)」と答える生徒の割合を 85%以上にする。 (カリキュラム改革関連)
- ②平成 27 年度末の校内アンケートにおける「体調面での自己管理ができています」の項目について、「よくあてはまる (や
やあてはまる)」と答える生徒の割合を 80%以上にする。 (カリキュラム改革関連)
- ③検診で分かった症状の受診率 100%をめざす。 (カリキュラム改革関連)

3 本年度の自己評価結果の総括

- ・生徒の学力の向上は、教員の授業力の向上と考え、今年度も授業改善に取り組んだ。校内授業研究と研究協議は、全教員が参加し充実しており、若手教員の育成にもなっている。学び続ける教員サポート事業で、全教員が指導案のある授業研究を実施した。全教員が参加できる態勢の充実を図りたい。
- ・集団育成の具体的方策として、ピア・サポート活動の取組みを実施している。教員対象の研修も実施した。今後も引き続き、計画的に研修を行い、生徒の育成に繋げていく。学年集会や全校集会を充実させ、基本的な生活習慣の育成を、全教職員で取り組んだ。その結果、落ち着いた雰囲気のある学校になっている。
- ・清掃指導を通し、子どもの心を育てるために、今年度も、クリーンアップ大作戦を土曜授業として、地域や保護者の力を借り取り組んだ。今回は、同窓会やダスキンとの協力で実施した。保護者の参加も昨年度より多かった。保護者に啓発した結果である。クリーンアップ大作戦で学習したことが、努力目標である「自らすすんで掃除をする生徒」の育成に繋げるよう指導の工夫をしていきたい。
- ・学校元気アップ地域本部と連携して、重点目標である、「生徒の道徳心、社会性をはぐくむ取り組みを進める」を、ボランティア活動（地域行事への参加、生徒会清掃）や夕陽丘カルチャー教室（日本文化体験学習）、クリーンアップ大作戦を実施した。地域の人材を活用し、生徒に社会の関心を持たせる取組みをした。次年度も、教職員組織と地域本部との連携を強め、教育活動を充実させたい。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標を達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点 学力の向上】</p> <p>①言語活動の取り組みを学校全体で取り入れ、平成 28 年度の全国学力・学習状況調査における「普段の授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていると思いますか。」の項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 40%以上にする。 (カリキュラム改革関連)</p> <p>②平成 27 年度末には、校区小学校と校種や教科を越えた連携を図り、指導法について研修し、相互の授業参観を実施する。 (マネジメント改革関連)</p> <p>③平成 27 年度のテスト前学習に参加する生徒の割合を 15%にする。 (カリキュラム改革関連)</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【表現力の育成】</p> <p>ICTを活用するなどして、授業で言語活動を活発に取り入れることを目標に授業内容を工夫し、研究授業・研究協議を実施することで、学校全体で表現力の育成に努める。</p> <p>指標 年度中 1 回表現力の育成を目指した校内研修会を実施。 年度中 1 回 ICT活用研修を実施する。</p>	B
<p>取組内容②【小中連携】</p> <p>校区小学校との連携を強化し、相互の授業参観を実施し、研修を行うことで教科のスキルアップを図る。校種や教科を越えた連携を築く。</p> <p>指標 年度中 1 回小中で相互参観を実施し、研究協議を一緒に行う。 長期休業中に 1 回小中連携の会議を実施する。</p>	B
<p>取組内容③【補充学習の充実】</p> <p>定期テスト前の放課後を活用し、「テスト前学習」の時間をとり、生徒に呼びかけ実施する。</p> <p>指標 年間 5 回の定期テストごとに 2 日間のテスト前学習を実施し、参加する生徒の割合を 15%にする。</p>	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ① ICTを活用した授業については、中間評価以後、各教科で実施が増えている。事業実践後に個々に情報交換をし、研修を深めることができた。また、各教科、学年での今年度の活用状況を校務支援パソコンを用いてまとめ、これを見ることで今後の活用の足がかりとして共通理解を図ることができた。
- ② 夏期休業中に第3回小中教職員総会を実施し、連携を強化することができた。小中の相互参観については今後、実施する計画を立てていきたい。
- ③ 年間を通し全ての定期テストにおいて放課後を活用した「テスト前学習」を実施することができた。参加する生徒の割合も20%を超えており、子ども達の積極的な姿が見られた。

次年度への改善点

- ① 今後導入される予定のICT機器のスムーズな運用と効果的な活用の研究。
- ② 小中の相互参観についての時間設定及び計画などの体制作り。
- ③ 本当に学力を伸ばしていかなければならない生徒への「テスト前学習」参加をいかに促していくか。また、各教科の実施する日程を上手く調整し、有効的に行う工夫が必要である。

年度目標	達成状況
<p>【視点 道徳心・社会性の育成】</p> <p>①平成 27 年度末の校内調査において遅刻生徒の数を前年度より減少させる。 (カリキュラム改革関連)</p> <p>②平成 28 年度の全国学力・学習状況調査における「人の気持ちがわかる人間になりたいと思いますか」の項目について「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を 95%以上にする。(カリキュラム改革関連)</p> <p>③平成 28 年度の全国学力・学習状況調査における「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の項目について「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を 35%以上にする。(ガバナンス改革関連)</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【生活習慣の確立】</p> <p>学期はじめに集会週間をとり生活リズムを取り戻す。毎朝の風紀当番で風紀委員に遅刻の統計をとらせ、風紀カードを発行させる。</p>	A
<p>指標 月 1 回の遅刻の統計を集計して、風紀通信の形で発行する。担任の先生がクラスに促す。風紀カードに保護者チェック欄を設け、遅刻者、服装違反者の家庭へ知らせる。</p>	
<p>取組内容②【道徳心の育成】</p> <p>ピアサポート、道徳副教材の積極的な活用、福祉体験をはじめとする年間行事の深化充実をはかる。</p>	B
<p>指標 (1) 道徳副教材をはじめ、子どもの実態に即した教材を精選し、各学年、体験活動を学期に 1 回以上実施する。 (2) 学年、クラスでピアサポートの時間を年間 6 時間実施する。</p>	
<p>取組内容③【社会性の育成】</p> <p>元気アップ事業との連携、生徒会ボランティア清掃への参加など地域とのかかわりを働きかける。</p>	A
<p>指標 生徒会主催で年に 2 回地域の清掃活動を行う。 保護者、地域の方と協力し校内の大掃除を年 1 回実施する。</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

①遅刻者数に関しては3学年とも非常に減っている。また予鈴後登校も少ない。風紀委員、生徒会を中心に、朝のあいさつ運動、ペットボトルキャップ集め、風紀チェック等の活動が活発にできている。

②道徳の読み物教材の授業を確保し行った。行事については積極的に取り組み、概ね成功している。

各学年の体験活動

1学期 1年 一泊移住 2年 校外学習 3年 修学旅行、平和学習

2学期 1年 福祉体験、日本文化体験 2年 職場体験 3年 進路学習

3学期 1年 ビブリオバトル 2年 ピアサポート学習、日本文化体験

3年 ピアサポート学習

全学年 体育大会、文化祭、ボランティア清掃、クリーンアップ大作戦

1・2年 サンクスタイム

ピアサポートプログラムは、年間で一年3時間・二年6時間・三年2時間を行った。

③一学期に上汐公園にてボランティア清掃を行った。80名参加した。

次年度への改善点

①遅刻者ゼロをめざし取り組んでいく。生徒会のペットボトルキャップ集めの成果を上げる。

②道徳の授業の充実が必要である。今は学年単位で読み物教材の授業を行っているが、全職員が関われるシステムを作ってみてはどうか。

体験活動等に生徒は前向きに取り組んでいるが、一つ一つの行事をきっちり進めるには、行事が続きすぎている感がある。来年度に向け行事の精選や見直しをする必要がある。

③非常に良く頑張っている。この活動をさらに充実させたい。

年度目標	達成状況
<p>【視点 健康・体力の保持増進と美化意識の啓発】</p> <p>①平成 27 年度末の校内アンケートにおける「清掃活動を積極的に取り組んでいる。」の項目について、「よくあてはまる（ややあてはまる）」と答える生徒の割合を 85%以上にする。 (カリキュラム改革関連)</p> <p>②平成 27 年度末の校内アンケートにおける「体調面での自己管理ができています」の項目について、「よくあてはまる（ややあてはまる）」と答える生徒の割合を 80%以上にする。 (カリキュラム改革関連)</p> <p>③検診で分かった症状の受診率 100%をめざす。 (カリキュラム改革関連)</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【美化環境整備】 毎日の清掃活動と定期的な大掃除及び油引き・地域や保護者の協力・参加型のクリーンアップ大作戦をさらに充実させ、美化意識の啓発を行う。</p> <p>指標 美化委員を活性化させ、清掃点検を行うと共に給食当番係りの中心的な役割を担うよう指導する。地域清掃を 2 回実施する。</p>	B
<p>取組内容②【健康な生活習慣の確立】 毎日の生活の中での手洗いうがいの習慣が身につくよう指導する。</p> <p>指標 給食実施（本年度は 1・2 年生全員給食）にともない、給食当番も含めた手洗い・うがいの習慣が身につくよう指導する。 清潔・健康調査を学期に 1 回実施し、健康管理の意識を高める。</p>	B
<p>取組内容③【健康に関する現代的課題への対応】 「保健だより」を活用し、病気やケガについての啓発を行う。</p> <p>指標 「保健だより」を毎月発行とインフルエンザ流行時期に適切な調査の実施。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

①美化委員会では黒板拭きクリーナーの清掃や生徒常任委員会後に手洗い場の美化活動に努めた。本年度のクリーンアップ大作戦を10月中旬に地域・保護者・ダスキンと連携を図り、協力を得て実施できた。

②保健委員会では手洗いの励行を呼びかけるためのポスターを作成した。清潔・健康調査を担当の協力のもと、実施することができた。1, 2年の美化委員が給食委員を兼務し、給食マナーの向上を呼びかけた。

③「保健だより」による、病気やケガについての啓発を行うと共に、各学期末の教育健康相談時に、治療勧告を行い受診率の向上に努めた。インフルエンザ流行時に各教室で保健チェックを実施した。

1月末段階の受診率は、眼・耳・歯・尿において1年生は38/99の38.4%、2年生は37/98の37.8%、3年生は28/98の28.6%で全学年では103/295の34.9%の受診率であった。

次年度への改善点

- ・来年度、3学年の給食完全実施になるのもっと多くの生徒に手洗い・うがいの習慣がつくように働きかけをする必要がある。
- ・クリーンアップ大作戦などの学校行事では教師の役割分担の細分化をはかりたい。また、実施時期の見直しもしたい。(文化祭の取り組みとの同時進行は厳しい。)
- ・健康教育部の備品に関して各学年に担当者を置き、もっと使用しやすいようにしたい。